

**医療倫理** Medical Ethics

生命：A1-01111MS

素養科目 1年／前期 1単位 必修科目

科目責任者 川北 晃司(倫理学研究室)

**■ 教育目的**

医療を担う上で期待される倫理観を知り、法律をさらに超えた倫理を大切にできる専門職意識(プロフェッショナリズム)を培う。現代における医療倫理の中心には、患者と医療者間の良好な意思疎通と情報提供がある。医療倫理とは、患者と医療者の双方を励まし、高める価値観であることを理解する。【卒業認定・学位授与の方針:SD-④】

**■ 学習到達目標**

1. ヒューマニズム(人間の尊厳)及びその根拠・理由を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
2. 医療倫理規範及び倫理学理論を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
3. 医薬品にかかわる開発職・研究職・営業職のプロフェッショナリズム(専門職能者精神)を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)

**■ 準備学習(予習・復習)**

予習：日頃から医療とその倫理に関連すると思われるニュースに注目し、可能ならば新聞紙を読む。(20分以上)

復習：配布物を読み返し、要点をチェックするとともに、気になった箇所を自分で調べてみる。(30分以上)

**■ 授業形態**

講義

**■ 授業内容**

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入	最近の医療倫理関連ニュース例	A(5)-①-1
2	医療倫理の古典(1)	ヒポクラテスの誓いの意義と限界など	A(1)-①-1~2
3	医療倫理の古典(2)	ニュルンベルグ綱領、WMA ジュネーブ宣言、WMA ヘルシンキ宣言、WMA リスボン宣言など	A(2)-②-1、-③-1~4
4	倫理学理論・生命倫理原則(1)	倫理学理論と生命倫理4原則の意義と限界、professionalism、インフォームド・コンセント及びアセント	A(1)-①-1~7 A(2)-③-3
5	倫理学理論・生命倫理原則(2)	人間・個人・生命の尊厳とは何か、尊厳の根拠	A(2)-①-1
6	医療倫理の問題状況(1)	守秘義務とその例外、QOL の意義と問題など	A(2)-③-3~4
7	医療倫理の問題状況(2)	生殖医療の倫理	A(2)-①-3~4
8	医療倫理の問題状況(3)	終末期医療の倫理	A(2)-①-3~4
9	医療倫理の問題状況(4)	先進医療と生命倫理	A(2)-②-3
10	研究活動の倫理	FFP、QRP、parafraud の回避	A(2)-④-1~3
11	parafraud のもたらす害	水俣病事件から何を学ぶか	A(1)-①-3、A(2)-④-3
12	様々な学会と企業の倫理綱領	期待される研究者・開発者像	A(5)-①-1
13	MR の倫理	期待される MR 像	A(5)-①-1
14	近年における「薬害」例	制ガン剤イレッサによる奏功及び事故事例	A(1)-①-3、-③-5~7
15	まとめと補遺		A(2) 全般

**■ 授業分担者**

川北 晃司(No.1~15)

**■ 課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法**

課題のフィードバック：質問があれば個別に受けつけ、解説・説明をする。

成績評価方法：ルーブリック表にもとづき期末試験(70%)及び授業中のレポート(30%)で評価する。

**■ 教科書**

使用せず

**■ 参考書**

授業時に紹介します